



ファンドオブザイヤー2016
バランス(安定成長)型部門
最優秀ファンド賞

シュローダー・インカムアセット・アロケーション(毎月決算型)Aコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/資産複合/自動けいぞく投資可能

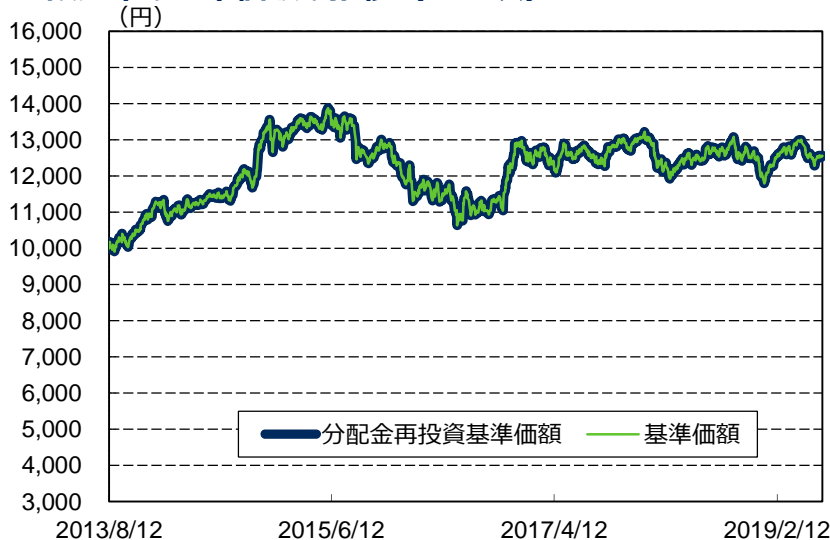
作成基準日: 2019年6月28日

設定日	2013年8月13日
信託期間	2023年6月5日まで
決算日	原則6月3日(休業日の場合は翌営業日)
信託報酬	ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.674%(税抜1.55%)

■ Aコース(為替ヘッジなし)

基準価額	12,564円
純資産総額	1,665(百万円)

■ 設定来の基準価額の推移 (Aコース)



- 分配金再投資基準価額は税引前分配金を再投資したものと計算しています。
- 基準価額は信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については上記「信託報酬」欄をご参照ください。
- 設定日前日を10,000として指数化

■ 基準価額の変動要因

	2019年5月	2019年6月	設定来
資産	-175円	313円	2,528円
為替	-288円	-179円	1,242円
信託報酬	-18円	-17円	-1,207円
分配金	0円	0円	0円
その他	4円	-10円	1円
基準価額変動	-477円	107円	2,564円

- 為替については、ドル円の変動による影響を示しており、その他通貨の変動については資産要因に含まれています。
- 右記は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、2015年6月分より、基準価額変動の資産要因をより正確に説明する観点から概算値の算出方法を調整しております。

■ 運用実績

	騰落率	リスク (標準偏差)
過去1ヶ月	0.86%	-
過去3ヶ月	-1.09%	-
過去6ヶ月	4.18%	-
過去1年	0.79%	8.36%
過去3年	15.24%	8.43%
過去5年	10.28%	9.92%
設定来	25.64%	9.54%

- 騰落率は実際の投資家利回りと異なります。
- 税引前分配金を再投資した基準価額の騰落率です。
- リスク(標準偏差)は、リターン(収益)の振れ幅のことを指します。

■ 分配実績(1万口当たり、税引前)

決算期	Aコース
第2期(2015年6月3日)	0円
第3期(2016年6月3日)	0円
第4期(2017年6月5日)	0円
第5期(2018年6月4日)	0円
第6期(2019年6月3日)	0円

設定来累計

0円

- 運用状況によっては分配金が支払われない場合があります。

(資産要因の内訳)

	2019年5月	2019年6月
高配当株式	-241円	178円
債券	46円	188円
投資適格債券	11円	12円
ハイールド債券	-5円	88円
現地通貨建て新興国債券	13円	15円
米ドル建て新興国債券	26円	31円
先進国国債	2円	0円
転換社債	-8円	20円
優先証券	7円	22円
その他インカムアセット	-20円	3円
その他(先物等)	40円	-56円
資産要因小計	-175円	313円

※販売会社によっては、「Aコース(為替ヘッジなし)」と「Bコース(為替ヘッジあり)」のどちらか一方のみのお取り扱いとなる場合があります。

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご参照ください。第三者機関による評価は過去の一定の期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。モーニングスターアワードの詳細については、11ページをご覧ください。



ファンド オブ ザ イヤー 2016

バランス(安定成長)型部門

最優秀ファンド賞

シュローダー・インカムアセット・アロケーション(毎月決算型)Aコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/資産複合/自動けいぞく投資可能

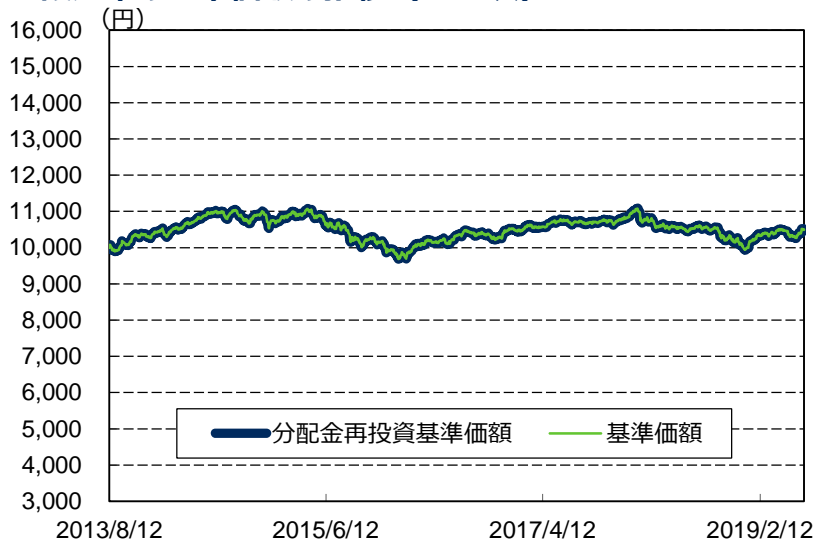
作成基準日: 2019年6月28日

設定日	2013年8月13日
信託期間	2023年6月5日まで
決算日	原則6月3日(休業日の場合は翌営業日)
信託報酬	ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.674%(税抜1.55%)

■ Bコース(為替ヘッジあり)

基準価額	10,491円
純資産総額	541(百万円)

■ 設定来の基準価額の推移 (Bコース)



- 分配金再投資基準価額は税引前分配金を再投資したものとして計算しています。
- 基準価額は信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については上記「信託報酬」欄をご参照ください。
- 設定日前日を10,000として指数化

■ 基準価額の変動要因

	2019年5月	2019年6月	設定来
資産	-142円	258円	2,337円
ヘッジコスト	-26円	-25円	-863円
信託報酬	-14円	-14円	-1,032円
分配金	0円	0円	0円
その他	-17円	-6円	49円
基準価額変動	-199円	213円	491円

- ヘッジコストはドル円のヘッジコストを示しています。
- 右記は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、2015年6月分より、基準価額変動の資産要因をより正確に説明する観点から概算値の算出方法を調整しております。

■ 運用実績

	騰落率	リスク (標準偏差)
過去1ヶ月	2.07%	-
過去3ヶ月	1.03%	-
過去6ヶ月	5.55%	-
過去1年	0.31%	6.37%
過去3年	3.39%	4.73%
過去5年	-4.28%	4.96%
設定来	4.91%	4.91%

- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
- 税引前分配金を再投資した基準価額の騰落率です。
- リスク(標準偏差)は、リターン(収益)の振れ幅のことを指します。

■ 分配実績(1万口当たり、税引前)

決算期	Bコース
第2期(2015年6月3日)	0円
第3期(2016年6月3日)	0円
第4期(2017年6月5日)	0円
第5期(2018年6月4日)	0円
第6期(2019年6月3日)	0円

設定来累計 0円

- 運用状況によっては分配金が支払われない場合があります。

(資産要因の内訳)

	2019年5月	2019年6月
高配当株式	-195円	147円
債券	39円	155円
投資適格債券	9円	10円
ハイールド債券	-4円	72円
現地通貨建て新興国債券	11円	12円
米ドル建て新興国債券	21円	26円
先進国国債	2円	0円
転換社債	-6円	17円
優先証券	6円	18円
その他インカムアセット	-16円	2円
その他(先物等)	30円	-46円
資産要因小計	-142円	258円

※販売会社によっては、「Aコース(為替ヘッジなし)」と「Bコース(為替ヘッジあり)」のどちらか一方のみのお取り扱いとなる場合があります。

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご参照ください。第三者機関による評価は過去の一定の期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。モーニングスターアワードの詳細については、11ページをご覧ください。



ファンドオブザイヤー2016
バランス(安定成長)型部門
最優秀ファンド賞

シュローダー・インカムアセットアロケーション(毎月決算型)Aコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/資産複合/自動けいぞく投資可能

作成基準日：2019年6月28日

マザーファンドの投資対象ファンドである 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム」

■ ポートフォリオ利回り

	利回り
高配当株式	4.3%
債券	4.9%
その他インカムアセット	5.1%
ポートフォリオ全体	4.7%

・利回りの計算は委託会社の見解に基づき行っています。

■ 資産配分比率

	比率
高配当株式	26.5%
債券	61.3%
その他インカムアセット	10.5%
キャッシュ等	1.7%
合計	100.0%

■ 通貨別構成比

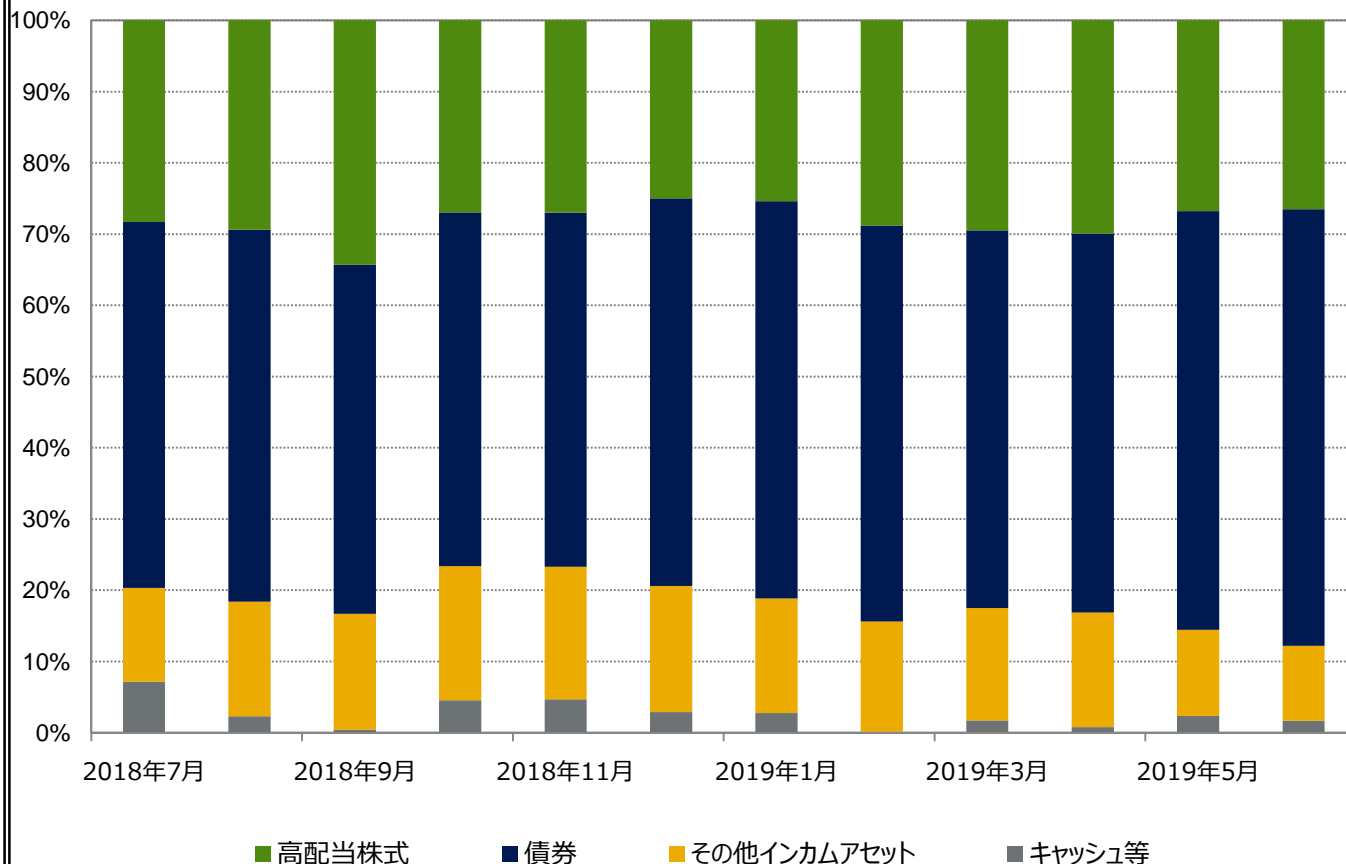
通貨	比率
米ドル・その他先進国通貨	92.3%
新興国通貨	7.7%
合計	100.0%

■ 地域別構成比

地域	比率
北米	52.4%
新興国	18.6%
欧州	15.5%
アジア・オセアニア	6.0%
その他	7.5%
合計	100.0%

■ 過去1年間のポートフォリオ利回り(上段)と資産配分比率(下段)の推移

2018年						2019年					
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
4.2%	4.0%	4.2%	4.5%	4.5%	4.5%	4.7%	4.5%	4.5%	4.5%	4.5%	4.7%



※「キャッシュ等」は、先物、ヘッジポジション等を考慮して算出したものです。

※配分および構成比率について、四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご参照ください。第三者機関による評価は過去の一定の期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。モーニングスターアワードの詳細については、11ページをご覧ください。



ファンド オブ ザ イヤー 2016
バランス(安定成長)型部門
最優秀ファンド賞

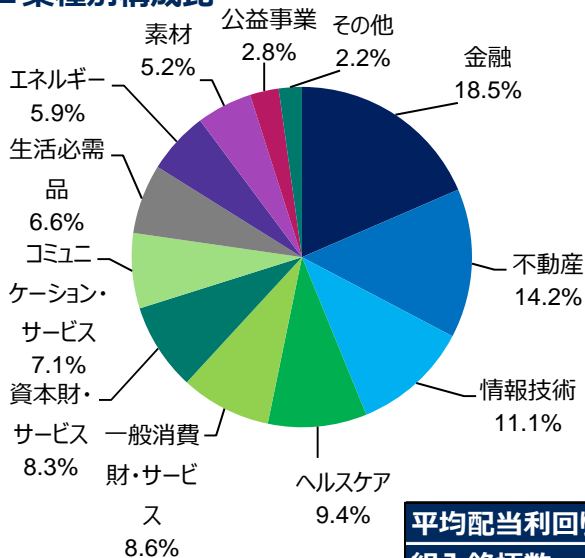
シュローダー・インカムアセット・アロケーション(毎月決算型)Aコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/資産複合/自動けいぞく投資可能

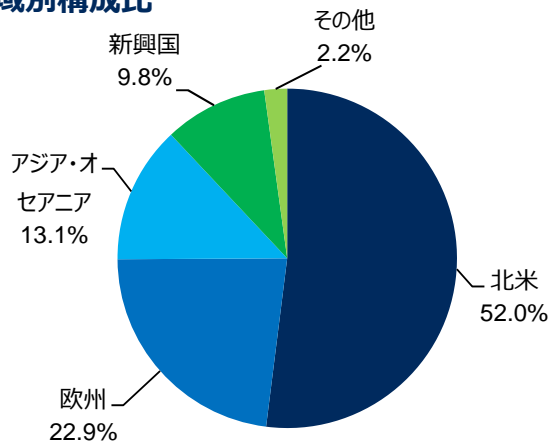
作成基準日：2019年6月28日

■ 高配当株式部分の状況

■ 業種別構成比



■ 地域別構成比



※構成比について、四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

平均配当利回り	4.3%
組入銘柄数	707銘柄

■ 債券部分の状況

■ 債券ポートフォリオ特性

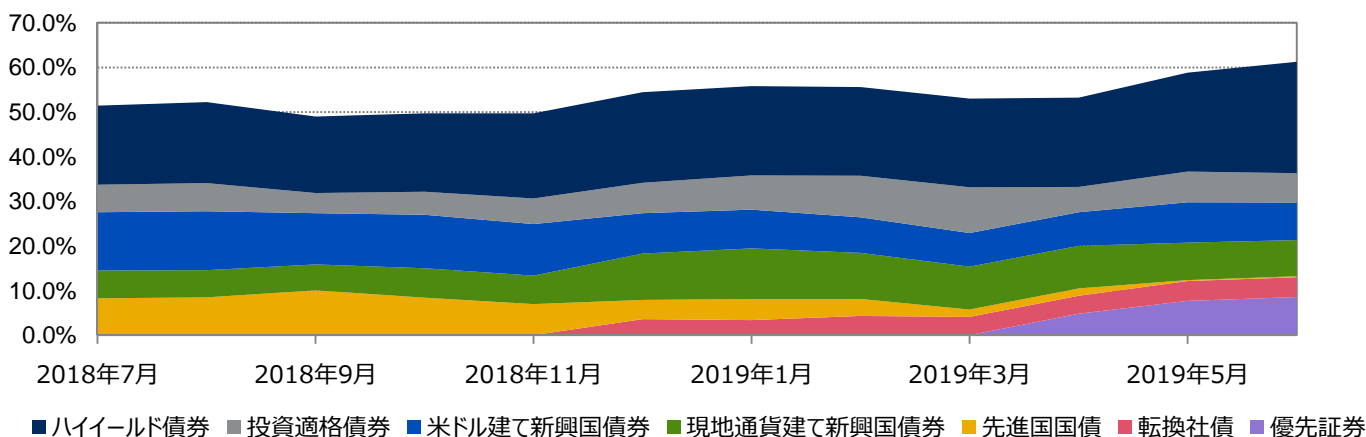
デュレーション(年)	5.3
平均利回り	4.9%
平均格付*	BB+
組入銘柄数*	823銘柄

- ・ 利回りの計算は委託会社の見解に基づき行っています。
- ・ 平均格付はS&P・Moody's・Fitchの平均を採用。S&P表記法で記載。
- ・ 平均格付とは、マザーファンドが投資するファンドにおける組入資産の信用格付を加重平均したものであり、当ファンド自体の信用格付ではありません。
- ・ * 優先証券は含まれておりません。

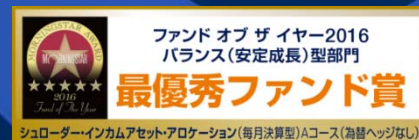
■ 債券組入比率

	比率
ハイイールド債券	25.0%
投資適格債券	6.6%
米ドル建て新興国債券	8.4%
現地通貨建て新興国債券	8.2%
先進国国債	0.2%
転換社債	4.4%
優先証券	8.5%
債券合計	61.3%

■ 過去1年間の債券組入比率の推移



上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご参照ください。第三者機関による評価は過去の一定の期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。モーニングスターアワードの詳細については、11ページをご覧ください。



■ 月次コメント

【市況概況】

6月、主要国中央銀行が緩和姿勢を強調したことや、20か国・地域（G20）首脳会議における米中首脳会談への期待感の高まりから米中貿易摩擦懸念が後退したことを背景に、投資家心理が改善し先進国株式市場は上昇しました。このような環境下、エマージング株式市場は米ドルの下落が支援材料となり上昇したものの、先進国株式市場を下回りました。

6月のグローバル債券市場は、国債利回りが低下しました。米連邦公開市場委員会(FOMC)において年内の利下げの可能性が示唆されたことや、ドラギ欧州中央銀行(ECB) 総裁が、インフレ圧力の低迷が継続した場合、追加の金融緩和が必要になると発言したこと等を受けて、米国債やドイツ国債の利回りは低下しました。これらを背景に、投資家のリスク選好姿勢が強まり、新興国債券市場は現地通貨建て債券市場が牽引し、堅調に推移しました。

【運用概況】

6月、米中貿易摩擦懸念の緩和や主要国中央銀行が改めて緩和姿勢を強調したことなどを背景に総じて世界の株式が上昇したことから、高配当株式の組入れがパフォーマンスの主なプラス要因となりました。また、投資家心理の改善によりハイイールド債券や新興国債券の組入れもプラスに寄与しました。

高配当株式については、各地域への配分を変更しつつ、高配当株式の組入比率全体では前月末からほぼ横ばいの26%程度を維持しました。

債券については、米連邦準備制度理事会（FRB）やECBが緩和姿勢を強調したことを背景に、利益確定およびファンドのデュレーション(金利感応度)短期化を企図して、国債の組入比率を一部引き下げました。また、十分に供給される流動性を背景に、ハイイールド債の組入比率を引き上げました。

【今後の見通しと運用方針】

十分に供給される流動性が市場の下支えとなっているものの、景気後退懸念は依然として残っており、米国以外の国々では経済に改善がみられていないことなども踏まえ、景気サイクルにおける足元の立ち位置には引き続き注視する必要があります。これらを背景に、ファンドでは景気サイクルを注視しつつ、ハイイールド債券への選好を維持しており、株式への配分も機動的に調整していく方針です。

世界景気減速懸念、米中貿易摩擦、英国のEU離脱問題などにより、変動性の高い市場環境が継続すると見込まれるため、市場動向を注視しつつ、長期的な視点から収益獲得が見込める機会を追求していく方針です。

※ 上記は、マザーファンドの投資対象ファンドである「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム」の運用概況および運用方針を基に作成しております。

※ 上記の「運用概況」は投資対象ファンドのリターンに関する説明であり、インカムアセット・アロケーション(1年決算型)(以下ファンド)の基準価額の推移に関する他の記述とは一部整合しない場合があります。これは、ファンドでは外貨建通貨の取引に伴う為替変動またはヘッジコストの影響を受けること、またファンドと投資対象ファンドではリターンの評価の時点等が一致しない場合があること、その他の要因によります。

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご参照ください。第三者機関による評価は過去の一定の期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。モーニングスターアワードの詳細については、11ページをご覧ください。